

## 第7回土質工学会東北支部若手セミナーに参加して

井上 雅 裕

土質工学会東北支部では、支部活動の一環として若手セミナー（常任幹事：応用地質㈱比留間氏）を平成元年から年1回（平成5年は、2回）を開催しています。今年は5月20日（金）、21日（土）の2日間にわたり、通算7回目の「若手セミナー」を若葉薫る宮城県遠刈田温泉の蔵王ハイツで、約80名の参加者を迎えて開催されました（写真参照）。以前に「若手セミナー」全般に関する紹介の記事が掲載されているので、今回は第7回の「若手セミナー」の簡単な内容の紹介と幹事として携わっての感想（苦勞したこと）を述べてみたいと思います。

今回の「若手セミナー」は初日午後からの講演会では、名古屋大学工学部の大塚悟助教授と基礎地盤コンサルタンツ㈱の田上裕氏による『安定と沈下』に関する話が理論と実務の面からありました。理論的な話は内容が難しく、ついていけないという声がセミナー終了後のアンケートからも出ていましたが、実務の話は参加者の大部分が実務に携わっている人たちであったこともあり、直面する問題等に多いに参考になったと好評でした。

講演会終了後は、いつものように温泉につかり、さっぱりと汗を流して懇親会、懇談会（2次会）に備えます。今年の懇親会は会場の都合上、イス席だったため、なんとなく堅苦しい感じが最後まで残りましたが、そのかわり懇談会は部屋に分かれて深夜まで酒を酌み交わし、多いに盛り上がりました（今年は、つまみは十分だったが酒が完全に底を突いた）。

2日目は、一般発表会ということで、まだ前夜の酒が残っているのを気にしながら、朝9時から5編の主に沈下・安定に関する発表会があり、その後反省会を経て午前中で終了しました。

今年で7回目ということもあり、セミナーの進行もスムーズにできるようになりましたが、毎回の事ながら幹事長（今回は応用地質㈱の比留間氏）をはじめ幹事一同の事前準備はなかなかたいへんなもので、幹事の一員として今回参加した私は、正直言って終了するとホッとして、もう一泊温泉に浸ってのんびりしたいと思った程でした。そこで今後このような会を催す際の参考となればと思い幹事としての苦勞話を幾つかしたいと思います。

まず「若手セミナー」開催のために、準備委員会として幹事会を半年程前から3～4回行ないました。最初に決めなければならないのは、「いつ、どこで、何をテーマにしてやるか」です。日程は5月中～下旬と毎年ほぼ決まっていますが、テーマが過去のセミナーと

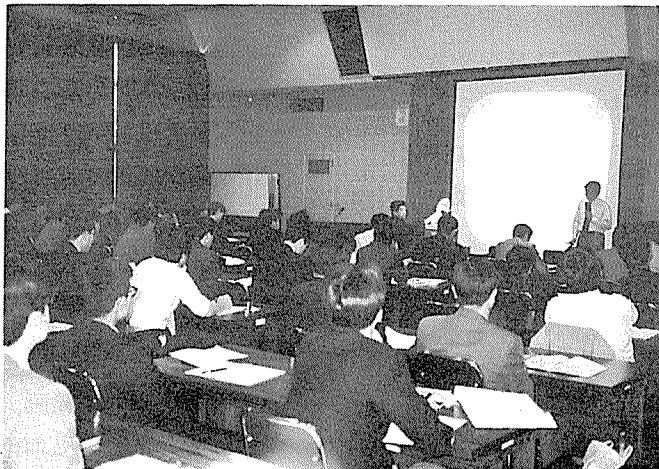
同じにならないように決めることは難しく、できるだけ参加する人たちの興味のある内容、知りたい内容を取り上げるように努力する必要があります（これが参加人数や会議中・後の意見交換に影響する）。開催地は、皆が参加し易いように、交通の便が良く、安く、しかもゆっくりできる温泉地という条件が加わるため、こちらもどこにするのか決定するのは難しいものです。「若手セミナー」では原則として東北新幹線沿線で、しかも温泉付の公共施設という条件でいつも選んでいますが、そろそろネタがつき、次回はどこにしようかと迷い所です。

場所と内容が決まればあとは、案内状の手配や講師の方々のお願ひ、参加人数の把握等がありますが、まずは一安心といったところです。

しかし、一番の苦勞は懇談会のためのお酒やつまみ等の直前の買い出しとそれをいかに会場へ持ち込むか（原則として持ち込みはできない）でした。特に缶ビールと氷はかなりかさばるため、クーラーボックス等に分散して持ち込みをはかりましたが、背広姿でクーラーボックスを手に提げて持ち運ぶ様子はとても奇妙な姿でした。またどの程度のお酒が必要かは、参加人数によっておおよその量は把握できるものの、酒量に個人差が大きいいため、なかなか難しいものです。事実今年はかなり多めに買ったつもりでしたが、懇談会の後半にはすっかりお酒がなくなり、部屋の冷蔵庫の中のお酒にも手を付けた次第です。なおこれ程飲んでも、今まで一度も宿泊施設から苦情を受けたことがなく、参加者のモラルの高さが伺えます。

以上簡単に第7回「若手セミナー」の内容と幹事としての感想を述べさせていただきます。第8回「若手セミナー」は平成7年5月頃の開催を予定していますが、その代表幹事は私が務めることに決定しています。皆さんの参加と御協力を宜しく願ひします。

（基礎地盤コンサルタンツ株）



写真：講演会場の様子